

全国選定



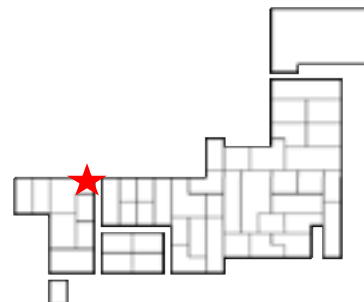
SDGs万華鏡KAGUYAプロジェクト

ビジネス・イノベーション部門

教育機関との連携

食育・教育

学生・若者の活躍



福岡県 北九州市

【概要】

- 北九州市には2,100haの竹林があり、そのうち9割は、所有者の高齢化や後継者不足として放置され、竹林整備・森林保全が課題。また、世界中で問題になっている海洋ごみ。アジア諸国に最も近い場所に位置する福岡県では、流れ着く海洋ごみが多く、海岸の清掃が課題。
- 農山漁村を守る活動に取り組む中で「山の問題は山で」、「海の問題は海で」と独立した課題として捉えられることが多い。課題を個々に捉えるのではなく、「山」と「海」の課題を包括的に捉え同時に解決・改善するため、子供と大人が楽しく学ぶことができる環境教育プロジェクトにより、環境の課題・資源の大切さ、地球に対して思いやりを育むことを推進。

【成果】

- 所有者の高齢化や後継者不足で放置された県内外の13カ所の竹林整備・森林保全に約840名が参加、約650本（約26t）の竹を伐採。また、5年間で県内外の海岸・離島18カ所の清掃活動に延べ約960名が参加し、延べ7,200kgの海洋ゴミを回収。
- 障害を持っている子ども達（中・高校生）が中心となって全国23カ所でワークショップを実施し、約1,200名の子ども達が参加。山と海のゴミを利用して万華鏡を作成。



竹林整備



海岸清掃



山と海のゴミで作った万華鏡



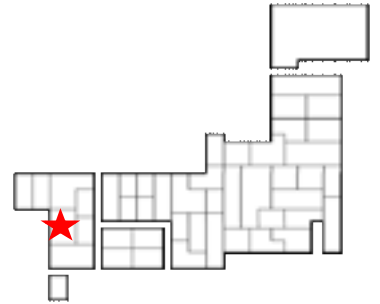
創造的復興と経営の選択肢としての農福連携

ビジネス・イノベーション部門

農業

復興

農福連携



熊本県 菊池郡大津町

【概要】

- 人材不足が進む地域農業において働き手の確保。情報が出にくい農業・福祉の両業界を公開し、農福現場のリアルな魅力を伝えることによる正しい理解と興味関心の向上が課題。
- 家族経営として150年以上営農していたが、平成28年に発生した熊本地震で大きな被害を受け、施設が全半壊したことで、再建のため法人化。家業から事業へと転換するため、GLOBAL G.A.P.の認証を取得し、労働環境の安心安全と作業内容の見える化に注力。事業へと転換をする際に、地元支援学校から受け入れた職場実習生の人間性を見て、障がい者のイメージが変わり、福祉施設と連携して障がい者を雇用するとともに、産地の付加価値向上を実現。

【成果】

- 採苗、除草、選果、洗果、出荷調整など幅広い業務をA型支援施設の利用者が担当しており、通年で常時4～10名の受入。農園での作業や農福の取り組みをSNSで公開。
- GGAP取得やDX化、マニュアル化を実施。サツマイモ単品目での周年供給と直販へと販路転換、自社ブランド「蔵出しベニーモ」を商品化するなど環境整備と経営の効率化を図ったことで、耕作面積と売上が拡大し、令和5年度には7,929万円となり、被災前の約4倍に増加。



A型利用者の作業の様子



さつまいもオブザイヤー受賞

高糖度の熟成芋
蔵出しベニーモ

自社ブランド「蔵出しベニーモ」



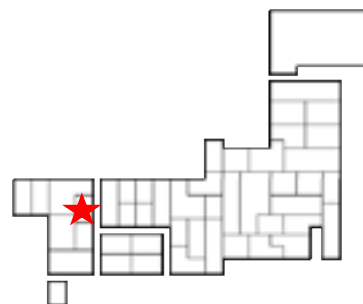
— 冷凍・加工設備が産地の共創力を紡ぎ育てる —

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

企業との連携

学生・若者の活躍



大分県 豊後大野市

【概要】

- 6つの課題（農林業の振興、地場製造業の強化、特産品の開発・ブランド化、農商工連携のモデル、若者の雇用確保、地域経済の活性化）をぶどうの房（クラスター）に見立て、地域農業者と連携して強いコミュニティビジネスの確立を目指す。
- 大手食品メーカーの工場が撤退し、大型冷凍設備・加工機器を譲受し、このメリットを活かす農産加工販売を開始。中山間地の食品工場として農業者、行政、地銀、企業、高校等と連携して成長。

【成果】

- 平成30年に農業参入し、令和6年には自社畑2ha、唐辛子ハウス11棟に拡大。甘藷の契約農家数は令和6年には15戸まで増加。大型冷凍庫を改設し、令和4年から冷凍焼き芋を東南アジアに輸出開始。大分県の水産試験場と共同開発したカボスの粉末を養殖に活用し、「かぼすぶり」をブランド化するなど売上は徐々に増加し、令和5年度は約5,000万円。
- 平成29年から甘藷や唐辛子の収穫に数十名の障がい者を受入れるなど農福連携に取り組むほか、地元の高校生等のインターンシップを受入れるなど将来の担い手育成にも力を入れる。



ベトナムでの試食会



規格外甘藷を利用した「濃厚焼き芋パフェ」



甘藷を収穫する障がい者と施設職員